



平成29年度 全附P連 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

Organizational chart showing roles such as 直前会長 (井上 恒治), 会長 (呉本 啓郎), 専務理事 (神余 智夫), 事務局長 (田中 一晃), and various committees like 委員会 (総務, 財務, 研修, 広報, 特別支援) and 評議員 (regional representatives).

Regional representatives table with columns for 北海道地区, 東北地区, 関東地区, 北信越地区, 東海地区, 近畿地区, 中国地区, 四国地区, 九州地区, and 学校連盟選出 (理事, 評議員).

平成29年度 委員会活動

- Summary of committee activities including: 総務委員会 (tasks like 総務全般, 諸会議の設営), 広報委員会 (tasks like 広報活動全般, ホームページの運営), 特別支援委員会 (tasks like カンガルーシップ助成金事業), 財務委員会 (tasks like 会計業務全般), 研修委員会 (tasks like PTA研修会第8回全国大会の企画), 運営企画会議 (tasks like 65周年ビジョン), 全国大会実行委員会 (tasks like PTA研修会第8回全国大会の連絡).

平成29年度 全国国立大学附属学校PTA連合会 活動基本方針

1 共有、対話による理解  
 附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し研究実践することで得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係官庁や諸団体に広く訴えていく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。

2 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携  
 子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安全の確保、附属学校を取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し、連合会、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。また、全国9地区主催の実践活動協議会など各地区活動を有機的に支援し連盟との協働による活動の活性化を図る。

3 対内および対外への広報活動の強化  
 各学校PTAがしっかりと子どもたちとそれぞれの学校に寄り添い有意義な活動ができるようその活動のヒントとなるようなPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるようマスメディアや関係諸機関に対し積極的な広報活動を展開する。さらにはICTを活用した情報交換、共有など、連合会が主体となってその運営強化を図る。

4 共に生きる1人1人の推進  
 連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、様々な取り組みを継続してきた。連合会はいくつかも種類を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自他を共に尊重する態度・能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進しインクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に努める。

5 国の目指す教育改革の先駆者として  
 国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、連合会は土曜日や放課後の有効活用ならびに外部人材や資源を発掘し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなくすべての子どもたちが夢と希望を持って成長している社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心・安全を確保するため防犯・防災に関する教育や活動および有害なICT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。

会長 呉本啓郎

役員・委員長・監事・顧問・地区会長の活動方針

 <p><b>井上 恒治 直前会長</b>        前任会長としての職務経験を生かし、業務全般について会長の諮問に応じ、連合会の更なる発展のため全力でサポートさせていただきます。</p>	 <p><b>鈴木 信雅 総務担当副会長</b>        従来からの事業に加え、今年度新たにいじめ防止に関する事業を実施します。引き続き諸課題に対処したより効果的な活動をしてまいります。</p>	 <p><b>小塚 泰博 研修担当副会長／全国大会実行委員長</b>        これまでの経験や教訓を生かし、全国大会が参加者と会員の皆様にとって有意義な会になるよう全力を尽くします。</p>
 <p><b>竹川 裕之 広報担当副会長／特別支援担当副会長</b>        今年は、SpeedyでSmartな戦略的な広報活動と、子ども達と保護者の心に寄り添った特別支援活動を展開します。</p>	<p>1年間、何卒、宜しくお願い申し上げます。</p>  <p>平成29年6月3日(土) 第1回 理事会終了後の集合写真 於 お茶の水女子大学附属中学校</p>	 <p><b>神余 智夫 専務理事／運営企画会議副議長</b>        連合会全般について効果的かつ適正な運営を行い、企画会議では今必要な活動を検討し実践していきます。</p>
 <p><b>大竹 昌士 総務委員長</b>        総務委員会では、土曜活動助成金事業、いじめ対策活動助成金事業等、各单位PTAの活動がより一層活性化する事業を推進して参ります。</p>		 <p><b>板倉 雄一郎 財務委員長</b>        財務委員会では、会計・財務の管理業務を中心に、カンガルー保険の推進や財政教育プログラムの普及拡大などを進めて参ります。</p>
 <p><b>平岡 昌純 研修委員長／全国大会副実行委員長</b>        参加者にとって新しい気づき・出会いのあるPTA研修会になるような全国大会の企画運営を目指します。</p>		 <p><b>雪岡 雅 特別支援委員長</b>        当委員会は障害の有無に関係なく、子どもたちの豊かな未来のため、特別支援委員会活動を通じインクルーシブ社会実現のために努力してまいります。</p>
 <p><b>鎌田 城行 監事</b>        全国の附属関係者のご努力で、年々多岐にわたる子どもたちの未来を拓く活動が、無事故で充実発展されるために、監査業務を適切に進めて参ります。</p>	 <p><b>大倉 宏治 監事</b>        今年度監事を務めさせていただきます。職業専門家としての経験を活かして、全附P連の適正な運営と予算の執行を監理していきたく思います。</p>	 <p><b>田中 米育 顧問／運営企画会議議長</b>        運営企画会議議長として、全附P連70周年に向け、中期活動方針の策定を進めて参ります。</p>
 <p><b>加々見 寛行 顧問</b>        幼児教育、特別支援教育の理解と情報共有は、重要事項です。特に幼児期の教育と方向付けは公教育に大きな成果をもたらすと確信します。</p>	 <p><b>安村 俊己 顧問</b>        在京の顧問としてフットワークを活かしつつ、前年度から引続き奨学金研究活動等を通じ、附属学校の存在意義を高めるよう活動します。</p>	 <p><b>岡部 太郎 顧問</b>        特支の保護者として連合会長を務めた平成19年度から特別支援教育が始まる中、校種を超えた交流・連携や啓蒙をできる限り後押しします。</p>
 <p><b>北海道地区 歌原 邦芳 会長</b>        北海道地区は最も一体感のある地区を目指し、コミュニケーションを活発にすることを大切に今年一年活動してまいります。</p>	 <p><b>東北地区 西井 英正 会長</b>        東北地区の課題は、地区間のコミュニケーションの深化をどのようにして図るか、です。ネットワークを作り、距離を克服したいと思います。</p>	 <p><b>関東地区 幡谷 史朗 会長</b>        関東地区総会で、13大学55校園から約400名の先生とPTAの皆様が一同に茨城の地で会します。あの震災を風化させない取り組みをして参ります。</p>
 <p><b>北信越地区 水城 由貴 会長</b>        信大附属松本小PTA会長の水城と申します。本年は、全附連北信越大会の主催を信州大学が主催致します。皆様の参加をお待ちしております。</p>	 <p><b>東海地区 大嶽 達哉 会長</b>        今年度、東海地区は「防災」について考えます。広域から通学する附属学校園ならではの課題を、みんなで共有していきたいと思っています。</p>	 <p><b>近畿地区 萩原 清明 会長</b>        「～すべては子どもたちと、この国の未来のために～」附属学校園の特色を活かしながら、互いにより成長できるように活動しております。</p>
 <p><b>中国地区 井上 浩 会長</b>        人との関わりを大切に、未来を拓く子ども達を育てる事を主題に活動を進めてまいります。11月島根で開催の総会、参加お待ちしております。</p>	 <p><b>四国地区 高野 一郎 会長</b>        地域に無くてはならないモデル校の理念を具現化させ、四国内での周知・共有と、全附P連活動を四国内に伝播出来るように努めます。</p>	 <p><b>九州地区 原田 佳英 会長</b>        皆さんと共に、様々なことを創造し、明るい未来に生きる子ども達のために、「九州はひとつ」という熱い想いを受け継ぎ、繋げていきます。</p>



# 6月2日(金) 全附P連 創立65周年記念特別研修事業 成果報告

## 第1分科会

### 特別支援プログラム

特別支援プログラムは、筑波大学附属大塚特別支援学校にて、参加者23名を対象に、次のような内容で開催しました。

①校内見学 幼稚部・小学部の帰りの会と「ミライの体育館」を見学、高等部掲示物の紹介。②柘



## 先導的な教育モデルをめざして

植雅義校長先生のご講演「先導的教育モデルを目指す筑波大附属特支の教育や合理的配慮について」。

③「サロン・ド・おつか」(筑波大附属大塚特支PTA活動)体験 焼き菓子(障がい者作業所より購入)が準備され、5グループに分かれての懇談。

柘植校長先生の熱意が伝わるご講演、和やかな中にも活発に意見を交わす学びの多いプログラムとなりました。

(戸栗倫子)

## 第2分科会

### 省庁訪問プログラム

当プログラムでは、文部科学省と財務省を訪問し、各省庁の取り組みについてセミナーをお聞きすると同時に活発な情報交換が行われました。

文部科学省では、明治以後今日まで、時代にあわせた教育の変遷について貴重な展示資料を見ながら教えていただくと同時に、これからの国立大学再編等を踏まえた附属のあり方についての提言や意見交換がなされました。

財務省では、財政教育プログラムの重要性と今後の展開について、各校の先生・保護者の方々

と意見交換していただきました。両省ともに、行政目線ではなく、国民目線でご考えてくださっていることがよく感じられた訪問プログラムでした。

(大倉宏治)

## 附属だからこそその取り組み



## 第3分科会

### 学芸大学プログラム



学芸大学プログラムは、東京学芸大学小金井キャンパス内において、同大学が実施している子どもへの貧困問題等に対する附属学校の取り組みを視察しました。初めに同

## 先進的な施設等を視察

キャンパス内に設置した「児童・生徒支援連携センター(CCS)」の概要や施設についての講義を受けた後、それを実践している附属小学校の取り組みや、特徴的な施設である「こどもモードハウス」などの視察を行いました。

参加者は、大学の学生が保育・教育の実習を兼ねてボランティアを行うことで効率的に運営されている保育所や放課後児童クラブに、先進的な貧困対策のモデルであると興味を示していました。

(齋藤利仁)

## 第4分科会

### 後援会プログラム

本プログラムでは、教育後援会の機能向上や寄付金収金力向上を目指し、日本ファンドレイジング協会から代表理事の鶴尾雅隆様、大石俊輔様を講師にお迎えし、准認定ファンドレイザー試験に必要な講習の一部を実施しました。

全国から後援会役員、そして将来の役員候補の方を中心とした43名の方が受講されました。

主に、一般的なファンディングの基礎とオンラインアランスに関する内容でしたが、一部、後援会向けのカスタマイズ

## ファンドレイザー講習を受講



もされた内容でした。印象的だったのは、寄付者が寄付を募る側の想いを受け、想いを託すのが寄付金であるとの内容に、寄付のイメージが一新された受講となりました。

(三浦 享)

# 今、改革の第一歩を！

今、附属学校には厳しい目が向けられており、規模縮小を含めた統廃合へ向けたカウントダウンは既に始まっているといっても過言ではありません。そして、外から評価される行動を起こし、確かな貢献を果たさなければその流れを止めることはできません。存続のために、附属学校にはこれまで通りではなく、新たに生まれ変わることが求められています。今こそ、関係者は危機感を共有し、改革に向けての第一歩を踏み出さなければならないのです。



全附連事務局長 田中一晃

果たせていないと厳しく指摘しています。

会議は、改革のための提言をまとめていく段階に入り、文科省からは、会議からの報告を八月から九月に予定していると聞いていますが、どのような内容になるにせよ、国立大学附属学校は、今後の在り方にかなり強い影響を受けることとなります。

残念ながら、世間の目は、これまでの附属学校の存在に対して否定的です。附属学校関係者の中にも、どの附属学校も「夢のような豊かな教育と、我が国の教育界をリードする質の高い研究を行い、国家・地域にとって有用な人材を育てている」という話で盛り上がりがあります。私も、附属学校に勤めていた頃は同じ思いでした。しかし、年々「附属学校不要」の声が高まってきていることからわかるように、外からはそのような評価は得られていません。その原因は、特権意識が強いこと、そして教育・研究の成果としてもたらされる恩恵が附属学校の中だけに止まっているとみられているところにあるのではないかと考えています。

附属学校存続のキーワードは「確かな貢献」です。しかし、貢献できているかどうかは当然のことながら自分たちが決めることではなく、相手が決めることで、相手が求めることに応えてこそ貢献は評価されます。

これまでの附属学校の取り組みに対し、「環境の異なる公立学校では活用できない」と指摘されることがしばしばあります。各附属学校が、現在進めている教育・研究が、地域のニーズや課題に即したものになっているか、また、「確かな内容を確かに発信し、確かなフィードバックを得て、さらに確かな内容に作り替えていく」といった地道で丁寧な努力を続けているか、これまでの学校運営、教育研究活動を見直し、十分でないところはすぐに改善し、これからは国と地域にとって「なくてはならない存在」として発展し続けていただきたいと強く願っています。

有識者会議は、国立教員養成大学・学部に対して、卒業生が期待通り教員になっていないという具体的なデータをもとに、目的大学でありながらその目的を果たせていないと指摘しています。また、附属学校に対しては、大学・学部と一体となった教員養成機能、公教育のモデル校としての機能といった本来の設置目的を

最後にになりましたが、保護者の皆様方には、現状をご理解いただき、今後とも「最高の応援団」として、末永くご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 各学校の特色ある取り組み

## 奈良教育大学附属幼稚園

本園は、一九二七年、奈良女子師範学校附属小学校の後援会の手によって、私立昭徳幼稚園として発足し、その後、師範学校附属幼稚園となり、戦中、戦後、そして今日まで九〇年の歩みを刻んできた。一九七九年に、奈良教育大学に近接した場に移転し、現在は奈良教育大学校内東南に位置づいている。立地条件から大学附属として、大学との連携を密にして、子どもたちの「心」も「体」も育つ幼稚園を目指して保育を展開してきた。



手足、ローラー、スポンジ、霧吹き、ほうき、熊手などを使う大胆な絵の具遊び

## 大学と連携し、子どもの輝く日々を創る！

本園の教育の柱は2つ。かけがえのない自分を大切に思う「自尊心」、そして昨年まで五年間かけて追求してきた「からだ力」。

理数教育の先生方とは、「科学の日」を幼稚園で設定した。「金環日食」の時には、地学の先生と学生さんが幼稚園に来て寸劇で説明、子どもの森にきのこが生える時期には「キノコ博士」が登場、またまた、園内での虫の話題には、生物の先生が乗り出し「附属幼稚園の虫図鑑」を学生と園児と共に作成した。大学の先生の話が難しいと「わからん」との子どもたちのブーイングに困惑する先生の顔。あるときには、虫の卵らしきものを孵化させてと頼まれ、承知したにもかかわらず、乾燥させてひからびさせてしまった生物学の先生もいた。その申し訳なさそうな顔は今も語り草：そんなエピソードが満載の園である。

美術の先生方とは、遊びの本能を呼び起こそうと、三トンの土粘土を使った大がかりな「泥んこワークショップ」を行い、顔中身体全体泥んこになって遊んだこともあった。また、「絵画ワークショップ」として、遊戯室いっぱい敷き詰められた大きな紙の上で子どもたち自身も色取り取りになりながら自由な描画表現を楽しむ経験もした。

地道な保育の実践と研究による質の高い教育、そして、大学との連携によるキラリと輝く保育を実現し、あるべき子どもの姿を示し、五年後も十年後も質の高い幼児教育のモデルを発信し続ける園でありたいと願っている。

詳しくは、手作り感満載の奈良教育大学附属幼稚園のホームページを見てください！

http://www.nara-edu.ac.jp/KINDER/homepage.htm

園長 玉村公二彦



「からだ力」を育む環境を工夫した子どもの森

本校は、校舎を共有する附属小学校との日常的な交流や行事交流を基盤とし、附属小学校との教科における交流及び共同学習をはじめ、学年・学部との進行に伴う学習の場を拡げている。

群馬大学附属特別支援学校 本授業では、通りかかった近隣の方々から感謝の言葉や感想を直接聞くことができ、生徒のやり甲斐や達成感が一層増したと受け止めている。

高等部は校内に開いたカフェに地域のお客様を迎えた。生徒がお客様から直接評価を受けることで、自身の取組を振り返り、自ら改善を図ろうとするようになってきた。学習のねらいや教師が行ったことにより、適切に評価を受けられたことが有効な支援となった。

これらの実践をとおして、学習を共にした児童生徒や教師、地域の方々にも変容が見られた。下図は、本校と附属小学校の教師を対象に実施した交流及び共同学習の実施機会に関する調査結果である。この結果から、両校とも教科等や日常的な機会での実施を意識しつつあることが分かった。



小学部 附属小の教師が支援する様子



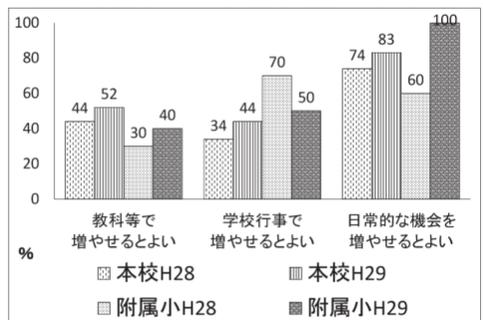
中学部 花を植える様子



高等部 カフェの様子

## 子どもも大人も「共に学ぶ」

交流及び共同学習の実施機会に関する教師の意識

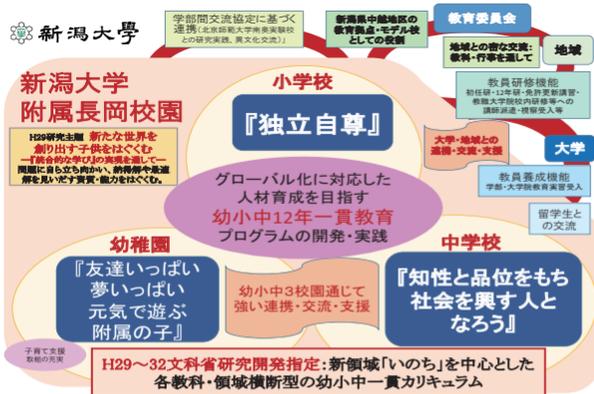


今後実践を重ね、児童生徒の変容とともに、学習を共にする教師や地域の方々の変容を丁寧に捉え、交流及び共同学習の価値をより確かなものにしていきたい。

研究主任 三澤 哲彦



長岡校園の様子



長岡校園の方針

### 新潟大学教育学部附属長岡校園

新潟大学教育学部附属長岡校園には、幼稚園・小学校・中学校があり、一体型校舎内です。連携し、グローバル化に対応した十二年間の一貫教育プログラム開発に継続的に取り組んでいます。平成二十二年から二十八年度まで、文科省研究開発指定校として、一人一人のより豊かな学びをめぐむことに邁進してきました。この教育研究は、平成二十五年度から第二次研究として認められ、「持続可能な発展のための教育」と連動する国際的観点を踏まえた教育活動として更に進展させてきました。これまでの「協働型学習」を通して、地域と連携して持続可能な社会を創り上げる資質・能力をめぐむことができました。

### 研究主題「新たな世界を創り出す子供をめぐむ」



幼・小・中合同大運動会の様子

様な現代社会の問題に自ら立ち向かい納得解や最適解を見いだそうとする子供をめぐむための研究です。また、この研究は、いのちや安全、安心、豊かさにつながる課題を見いだす「認知的側面」や、協働的解決に向けた「社会的側面」の資質・能力

### 幼小中一貫カリキュラムの研究開発



幼稚園と小学校は自由に行き来できます。交流の時間には、小学生が園児に、遊びたいことを聞きながら楽しく遊ぶ姿が見られます。

中学生が園児を招待して、一緒にゲームをしたり、手作りおやつを食べたり、みんなが楽しい時間を過ごします。

また、各種行事でも幼小中で連携しています。特に9月の大運動会では、園児から中学生まで息を合わせて応援し、競技も一緒に行っています。このような特色のある教育活動を行うことで、主体的な人格の形成を目指しています。

附属長岡中 森田雅弘

### 東京学芸大学附属国際中等教育学校

東京学芸大学附属国際中等教育学校は、国際バカロレア機構（IBO）が提供する国際的な教育プログラムを実践しています。2010年にMYP (Middle Years Programme)、2015年にDP (Diploma Programme) の認定を取得し、IBワールドスクールとして正式に認められました。IBプログラムでは、各科目のさらに内側にある概念としてMYPでは「SERVICE・ACTION」、DPでは「CREATIVITY・ACTIVITY・SERVICE (CAS)」が設定されています。社会とくんに接続し、そして社会にどのように貢献していくか、ということが問われています。

### 社会に貢献すること“で”学ぶ

本校では、中等教育段階6カ年を通してこうした社会貢献について段階的に取り組んでいける可能性がります。まず、前期課程の段階では生徒たちの興味・関心を

枠を広げるために様々な分野を知る機会を提供しつつ、その中に「社会貢献」に関する機会を盛り込みます。さらに、生徒が行動に移せる機会を提供していきます。例えば、2015年度、2016年度には特定非営利活動法人日本フアンドレイジング協会と連携し、協会発行の『社会に貢献する』をベースにしたワークショップを、1年生全員を対象に実施しました。この目的は、社会貢献はボランティアと寄付の両輪から構成されることを知り、日常で行える社会貢献活動を紹介しながら、社会貢献にたいする正確な知識、ポジティブなイメージを持つてもらふことにあります。そして、関心を持った生徒が行動に移せる機会として、途上国の子どもへの支援を目的としたチャリティマラソンのスタートアップボランティア、環境保護やロハスといったテーマを発信・啓



チャリティマラソンイベントでの給水・応援



ゲストスピーカーとダイアログ(日本版Learning by Givingプログラム)

後期課程になると、様々な活動を自ら企画し校外で実施したいという生徒が多くなります。そうした生徒には、企画の内容を社会貢献活動申請書として提出させます。リスクマネジメントや活動の発信・報告計画について、また街頭募金などで必要となる学校名の使用許可願についての項目などがあり、活動の趣旨だけでなく、活動を行う際に必要なことや活動の重要性も伝えます。様々な機会を通して、より興味・関心を持ち、さらには疑問なども持つようになった生徒には6年生の選択講座として国際A「国際協力と社会貢献」があります。1学期には、日本のODA政策やJICAの役割を学び、2学期以降は、米国のLearning By Givingプログラムを基にした、自分たちでNPOをリサーチし、評価をしたらうえで、用意された資金を実際に寄付するというプログラムを行っており、より実践的な学びの場となっています。

中学生が「社会に貢献すること」で「何を学ぶのか」。様々なコミュニケーションの中で立ち位置、自身の行動指針、自己を肯定する力が身についていくと考え

教諭 藤木 正史

### 各学校の特色ある取り組み

発するイベントでのボランティアから、地域の障がい者支援センター、福祉事業所、防災訓練でのお手伝いなど、国際協力・環境・地域振興、防災など様々な分野が用意され、これらの多くはボランティア部の生徒が校内募集やボランティア説明会を実施して運営しています。

# 全附P連PTA研修会

日程 9月29日(金)～30日(土)

場所 ハイアットリージェンシー東京

## 第8回全国大会

「子どもたちとこの国の未来のために～附属学校の果たすべき役割とは～」をスロガンに、第8回全国大会を開催します。本紙5面、田中事務局長の『今、改革の第一歩を!』にもありますように、附属学校の規模縮小を含む統廃合に向けたカウントダウンが始まっています。私たちは、附属学校が国と地域にとって“なくてはならない存在”として今後も発展し続けることを願っています。日本の未来のために、附属学校と私たちにできること、すべきことを皆で考えます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。また、次号の『附属だより』で全附連会員の皆様に報告させていただきます。(小塚泰博)



第7回全国大会の様子

第1日 9月29日(金)				第2日 9月30日(土)			
1日目	11:30 12:20	13:50 14:10	15:25 16:00	2日目	8:30 9:15	10:30 10:45	12:35
プログラム	受付 開会行事・オープニングセミナー	休憩 基調講演 阪根 健二教授 (鳴戸教育大学大学院) いじめ問題にどう対応すべきか	休憩 テーマ別分科会1～3 特別支援部会 教育後援会会長会	プログラム	受付 本講演 井村 雅代氏 (シンクロ日本代表ヘッドコーチ) 人を育てる～愛があるなら叱りなさい～	休憩 クロージングセミナー・シンポジウム 中村 克樹教授 (京都大学霊長類研究所) 生活習慣と成績の関係 ～食べることや寝ることの大切さ～	情報交換会
<パネル展示>絵画コンクール入賞作品・特支記念品展示							

### PTAいじめ防止 プログラム開催

香川大学教育学部附属坂出小学校



附属学校でもいじめの重大案件が問題になっており、PTAが傍観者になることなく、日頃からいじめ防止の活動を

していくことが求められています。こういった状況を受けて、6月12日に、香川大学教育学部附属坂出小学校で松韻会(P.T.A.)主催のいじめ防止プログラムが開催されました。

プログラムは、アドバイザーに鳴門教育大学大学院の阪根健二教授と香川大学教育学部の野崎武司副学部長を迎え、まず同校榎本副校長からいじめの基本的な情報、本校と児童会の取り組み

### いじめに対する 3つの活動にご協力を

みの説明がありました。次に、阪根先生からいじめの定義の変更、経験談、色画用紙を使ったアンケートを交えたいじめに対応する考え方などの講演がありました。後半のワークショップでは、家庭の冷蔵庫に貼る簡単なポスター作りを実施し、児童研究員という研究発表会の逆転発想で親が議論するところを児童に見てもらい、保護者も児童もいじめ防止に向けた気持ちを持ち強く持つてくれたものと思います。

全附P連では、いじめ防止のために次の3つの活動を行いますのでご協力をお願いします。ホームページ(U.R.Lは1面)もご覧ください。(神余智夫)

- ① いじめ防止ガイドライン
- ② いじめ防止プログラムの実施
- ③ いじめ対策活動等助成金

## 日本の「教育の礎」附属校の 教育理念、歴史、役割のすべてがわかる 国立大学附属学校の すべて

10月初旬  
全国一斉発売!!

大学や地域と連携した教員の養成・研修、学校教育の実践研究による指導法の開発など、日本の教育を支えてきた附属校。明治維新後、そして太平洋戦争後の混乱期を経た今日もその情熱は教員や保護者たちに引き継がれています。そんな附属校の教育理念や教育メソッド、各学校における個性的な授業や取り組みを紹介し、附属校ならではの新たな教育のあり方を提案していきます。

価格：880円+税

**【お申し込み方法】** この用紙を書店にご持参ください  
9月10日までにご注文いただきますと発売日にお受け取りになります。 ※アマゾンでも販売いたします。  
**【書店様へのお願ひ】** お客様からの注文に際しては、貴店印および注文冊数を明記の上、下記までFAXでお送りください。・ISBN：978-4-924508-24-8  
**【問い合わせ】**  
東方通信社 東京都千代田区神田錦町1-14-4 TEL.03-3518-8844 FAX.03-3518-8842



### 就労支援プロジェクト

が連携を持ち、多様性を「理解」し「共生」を育む活動を自らの学校園内で経験できることは、附属校ならではの「学び」のひとつでしょう。昨年度の活動報告は全附連のホームページに掲載しております。また、今年度の申請案内は各学校園に配布しておりますので、学び多い活動にお役立ていただきたいと思います。(戸栗倫子)



### 理解プロジェクト

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、多様性を尊重する共生社会づくりが進められています。1990年に世界で初めて障害に基づく差別をなくすための法律を制定したアメリカに対し、日本は昨年4月に障害者差別解消法が施行されました。これからの未来を担う附属の子も達は学力を身に付けることに加え、広い視野を持つ必要があります。カンガルーシップ助成金事業を通じて、校種を越えて、子ども・教師・保護者

## カンガルーシップ 特別支援

(鹿児島特支)

(愛教大特支)

### 編集後記

附属と公教育について、呉本新会長ほど熱く深く考へていらっしゃる者には知らない。附属学校が地域とこの国の未来のために「確かな貢献」を

ができ、「なくてはならない存在」として発展できるように、学校連盟とPTA連合会が丸となって取り組みたい。次号は、全国大会と絵画コンクールの特集号。乞うご期待! (小塚泰博)



全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

## 平成29年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内

この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

ただ今  
募集中!

(前子ども総合保険)

<b>任意加入制度</b>	<b>約50%割引</b> 全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割引です。 ・団体割引：20% ・損害率による割引：25%適用	<b>24時間補償</b> お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。	<b>簡単・便利!</b> ・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」 ・更新のお手続きは、便利な「自動更新」です。
<b>24時間補償</b>	<b>保険期間</b> 平成29年4月1日午後4時から平成30年4月1日午後4時まで1年間 ※随時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は平成30年4月1日午後4時に終了します。) ※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。	<b>加入対象者</b> ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)	<b>加入手続き</b> パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。 <b>申込締切日</b> 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。) ※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

[引受保険会社] (幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社  
(担当課) 公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL.03-3515-4133 FAX.03-3515-4132 平成29年5月作成 17-T01070

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

<b>1</b> 園児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する <b>園児・児童・生徒・教職員総合補償制度</b> (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)	<b>2</b> 園児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする <b>犯罪被害事故見舞補償制度</b> (傷害総合保険)	<b>3</b> PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する <b>PTA活動総合補償制度</b> (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)
<b>保険期間</b> 平成29年6月1日午後4時から平成30年6月1日午後4時まで ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン日本興亜株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のベストチームです。 ※この広告は概要を説明したものと異なります。詳細はパンフレットをご覧ください。取扱代理店または損害ジャパン日本興亜までお問い合わせください。		

[引受保険会社] 損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL.03-3349-9588 FAX.03-6388-0162  
※損害ジャパンと日本興亜損保は、2014年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になりました。 SJNK17-01973

北海道・東北・関東・北信越・四国地区

**株式会社 第一成和事務所**  
東京都中央区日本橋久松町11-6 ☎ 0120-100-492  
日本橋TSビル 8F

〈東海・近畿・中国・九州地区〉

**海上商事 株式会社**  
東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748  
新宿東京海上日動ビルディング